

2023年3月14日

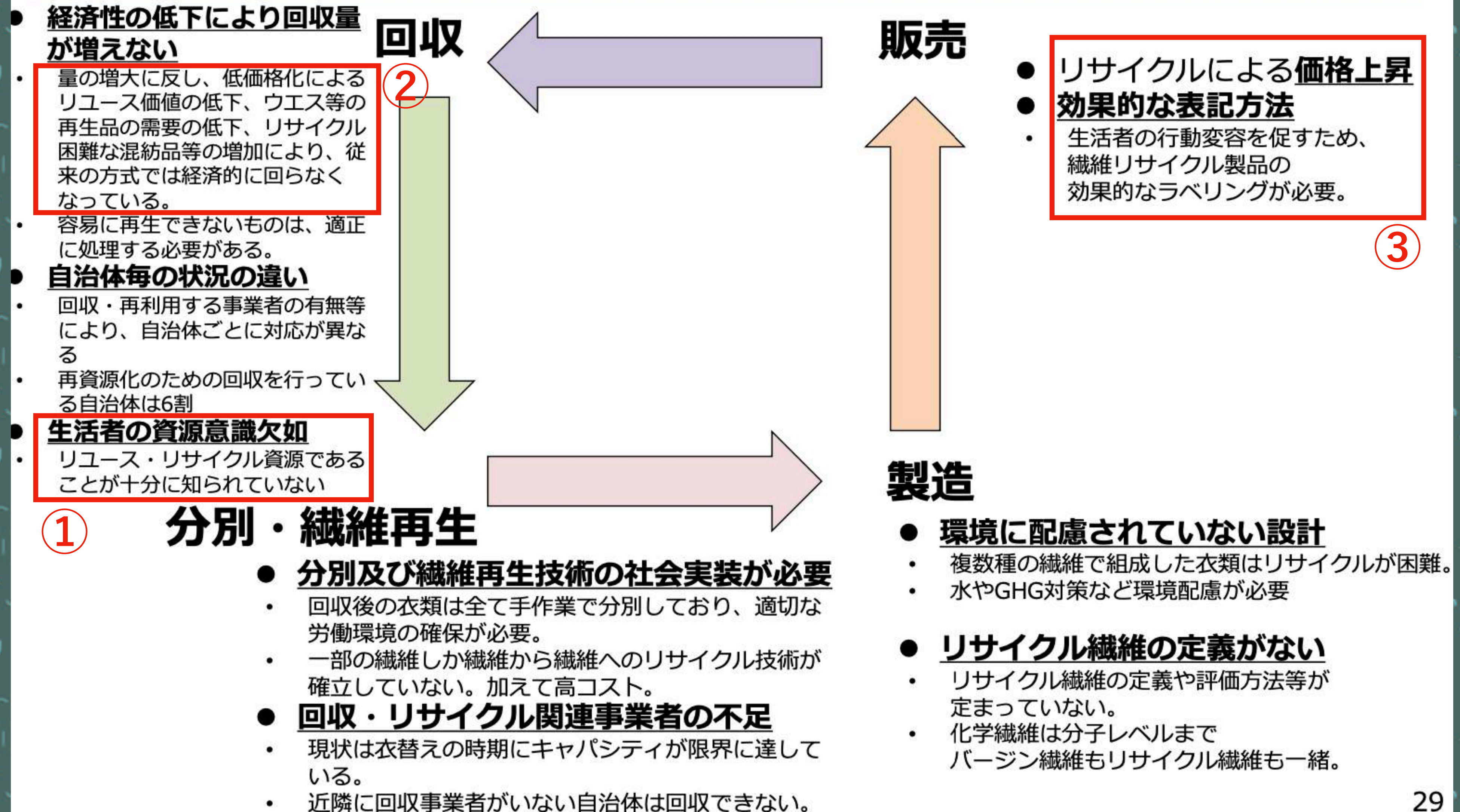
第3回繊維製品の資源循環システム検討会

(2050年ではなく) 2030年を意識した 生活者意識へのアプローチ

一般社団法人unisteps共同代表
鎌田安里紗 | Kamada Arisa

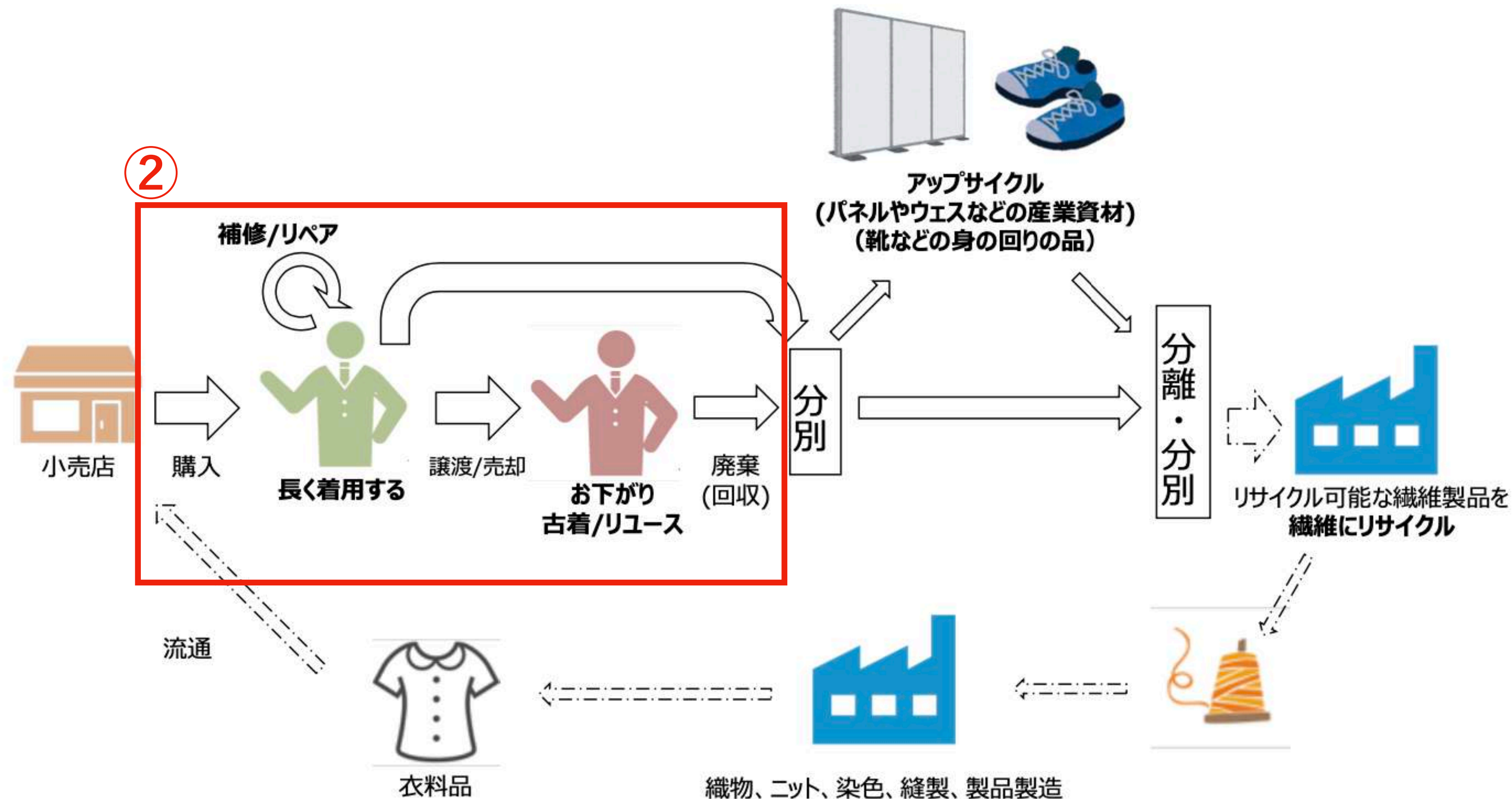
繊維製品の資源循環システムにおける課題（全体像）

- 国内における衣料品の資源循環システムには以下の課題が存在。



繊維製品（特に衣料品）の循環システムの全体像（イメージ）

- 衣料品を長く着るための衣料品の補修サービスや古着市場でのリユース、新たな価値を付与するアップサイクルなどの取組が進んでいる。



生活者意識に関する課題

課題①

使用済み衣類が「資源」であることが生活者に十分に認識されておらず、多くは可燃ゴミとして処分されている。（第1回資料3 P30）

課題②

回収しても従来の方式では経済的に回らなくなっている。（→ 出口をつくる + 投入のペースを落とす + 投入量を減らす。）（第1回資料3 P29）

課題③

リサイクル素材を使用することによる価格上昇への許容度（→ 生活者の行動変容を促すため、繊維リサイクル製品の効果的なラベリングが必要。）（第1回資料3 P29）

課題①

使用済み衣類が「資源」であることが生活者に十分に認識されておらず、多くは可燃ゴミとして処分されている。

起こすべき生活者の認識変化

■捨てる方が圧倒的に楽※

- ⇒捨てるのと同じくらい回収ボックスに入れることは簡単
- ⇒捨てるより、回収ボックスに持っていく方がなんとなく気持ちが良い

■要らなくなった服は捨てるもの

- ⇒捨てた（手放した）あと、ゴミになるものと資源になるものがある

アプローチ①

生活動線状の回収ボックス

（コンビニエンスストア/郵便局/駅/集合住宅/学校/病院…）

アプローチ②

回収後の価値の明確化



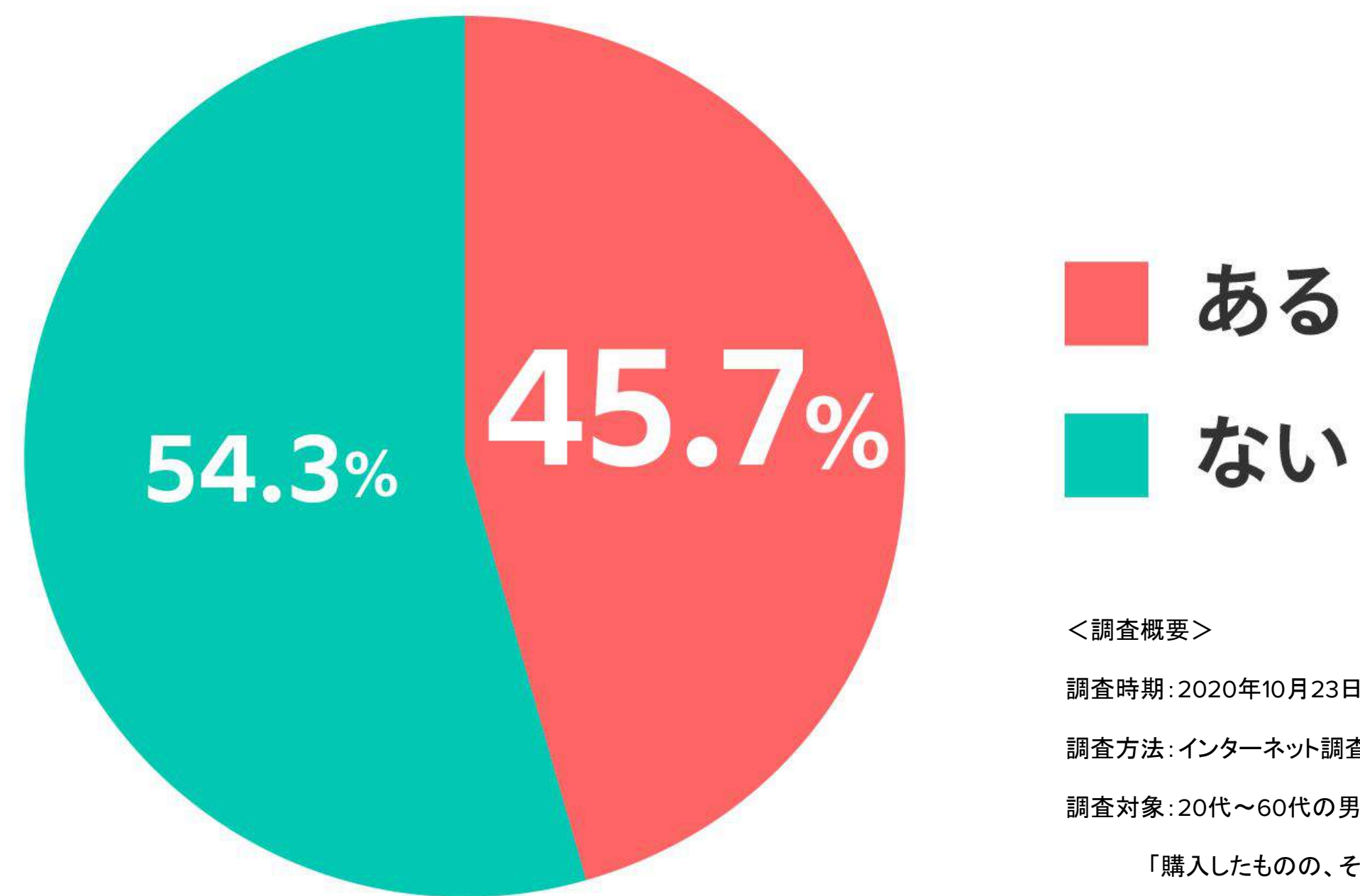




参考:「購入しても活用していないモノ」調査

直近1年間に購入したモノのうち、
「購入したものの、その後ほとんど使わなくなったモノ」はありますか？

(単一回答 | n=10,000)



<調査概要>

調査時期: 2020年10月23日(金)～25日(日)

調査方法: インターネット調査

調査対象: 20代～60代の男女10,000人ならびに

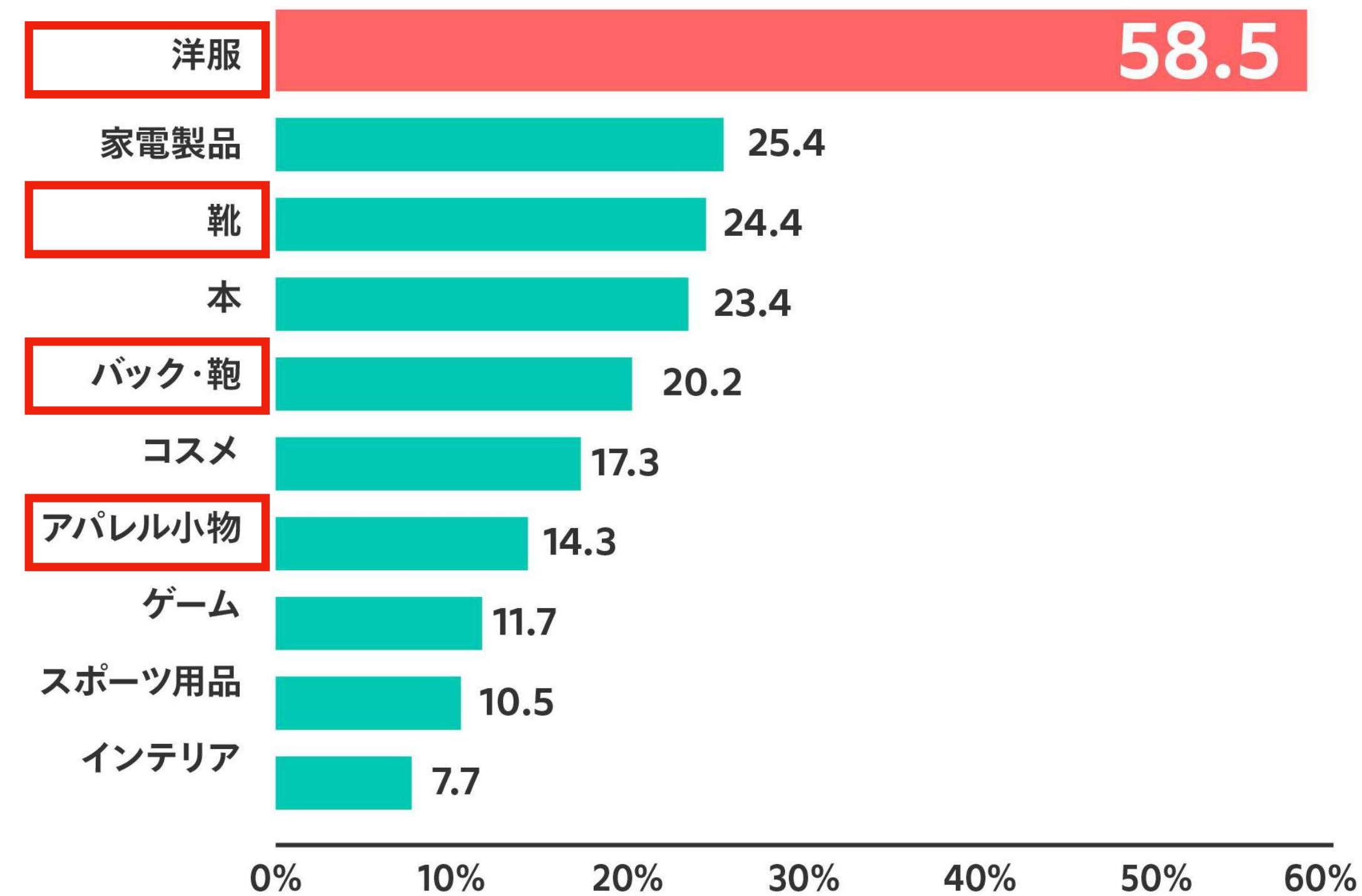
「購入したものの、その後ほとんど使わなくなったモノ」を保有していると

回答した20代～60代の男女1,000人

参考:「購入しても活用していないモノ」調査

「購入したものの、その後ほとんど使わなくなったモノ」 の商品カテゴリーTOP10

(複数回答 | n=4,575)



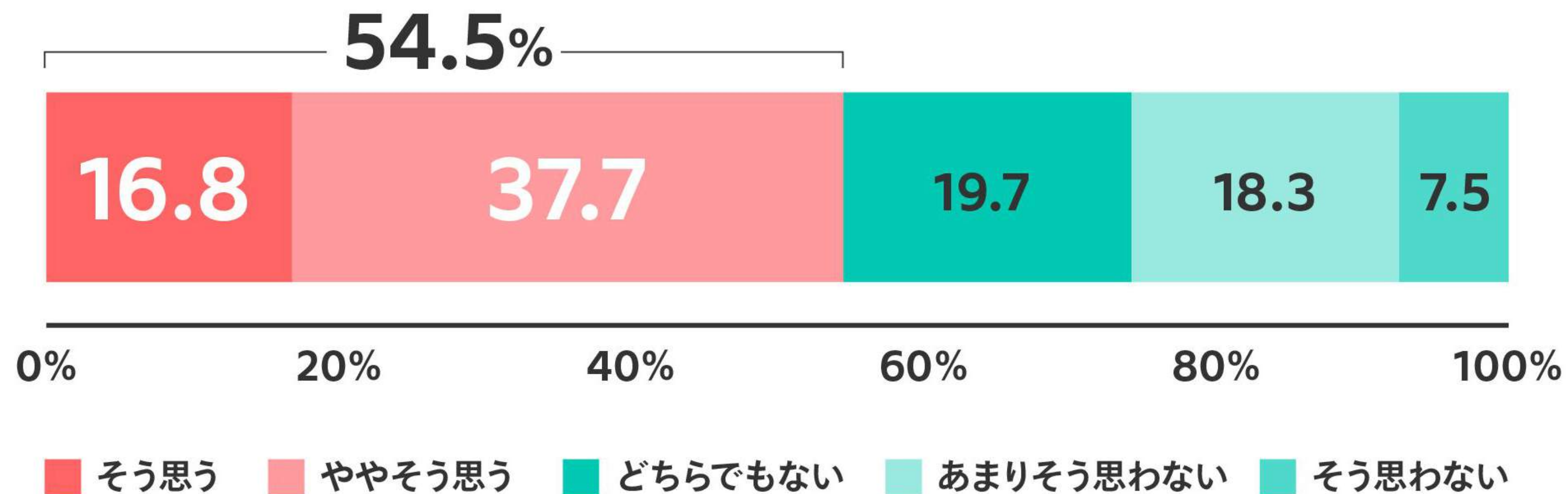
©Mercari, Inc.

出典:メルカリ総合研究所

参考:「購入しても活用していないモノ」調査

「購入したものの、その後ほとんど使わなくなったモノ」の
購入シーンを振り返り、“衝動買い”だったと思いますか？

(単一回答 | n=1,000)



©Mercari, Inc.

課題②

回収しても従来の方式では経済的に回らなくなっている。
(→ 出口をつくる + 投入のペースを落とす + 投入量を減らす。)

起こすべき生活者の認識変化

■ 服は数回着れば十分

⇒ 1着を長く着なければ環境的にも経済的にももったいない

■ 自分の服だからボロボロになってもいい

⇒ 飽きてしまったら誰かに受け継げるよう綺麗に着よう

■ 痛んだり壊れたら捨てるもの

⇒ 痛んだり壊れても直せるもの

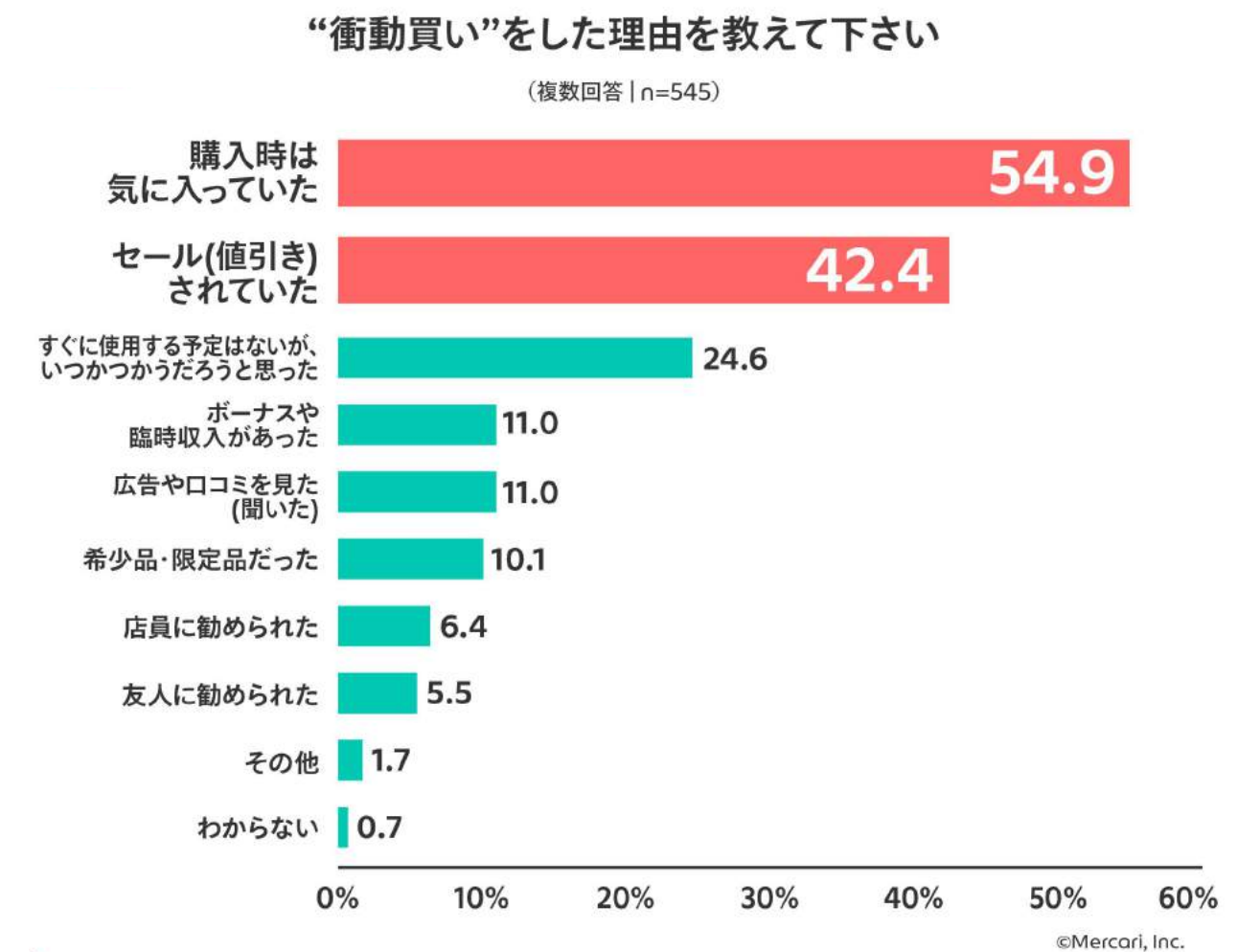
アプローチ③

買わせる発信から、考えさせる発信へ

アプローチ④

お直しへのアクセスを容易に

参考:「購入しても活用していないモノ」調査



参考:「購入しても活用していないモノ」調査

「購入したものの、その後ほとんど活用しなかったモノ」に費やした、
直近1年間の平均購入額





課題③

リサイクル素材を使用することによる価格上昇への許容度
(→ 生活者の行動変容を促すため、繊維リサイクル製品の効果的なラベリングが必要。)

起こすべき生活者の認識変化

■服は安くて手軽に買えるもの

⇒服ができるプロセスには膨大な工程と工夫がある

■リサイクルは低品質・低価格

⇒リサイクルは通常のものより手間暇がかかっている

⇒循環できることには大きな意義がある

アプローチ⑤

循環システムの中で不可視化されてきた
部分を可視化する

例) 生産と廃棄の現場を体感してもらうスタディーツアー
都市の中心に廃棄（循環）と生産の拠点をつくる





出典：H&Mウェブサイト